

令和 3 年 4 月 18 日
新型コロナウイルス感染症対策専門員会議

広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言

【感染状況】

- 県全体の新規報告数（直近 1 週間の 10 万対）は、3 月下旬まで低い水準で推移していたが、4 月初旬から増加傾向となり、4 月 17 日現在 4.62 人と警戒基準値を超えている。
- 特に、広島市内の新規報告数は 6.7 人と高く、感染経路不明割合も 47.9% であり、急拡大が始まった 12 月初旬の数値と同じ水準となっており、流行地からの流入や飲食関連も一定数発生が続いており、今後、クラスターが発生するなど流行の拡大に繋がる可能性がある。

【医療提供体制】

- 現時点で、病床がひっ迫している状況にはないが、感染力が強く、また、重症化しやすいとされる英国株の割合が広島県においても増加していることから、感染拡大のフェーズになれば、短期間で、現在の関西圏などの流行地域のようになり、医療提供体制に負荷が生じることとなる。
- 今後、感染者が急増した場合でも十分に対応できるよう、迅速なトリアージ体制と診療体制を強化、維持するとともに、病床や宿泊療養施設の整備状況の確認が必要である。

【ステージ判断について】

- 県全体は、新規報告数、感染経路不明割合の数値がステージⅡの水準にある。
- 関東圏、関西圏の感染拡大の状況、それらの地域との往来を起因とする感染者の発生、また、変異株による感染拡大が懸念されることから、今の段階において、ステージⅡに引き上げ、注意喚起を促すことは妥当であると考えられる。

【今後の対策について】

- 今後の対策においては、県民に対し、より分かりやすく伝え、具体的な行動に繋げることが重要であり、例えば、次のような事項を盛り込むことを提案する。
 - ・ 飲食、会食、職場、学校のマスクを外す場面での感染防止対策の徹底
 - ・ 有症状者への受診勧奨と、医療機関での検査の徹底
 - ・ 症状を有する場合、仕事等を休み、受診と自宅での療養実施
 - ・ 流行地との移動自粛
 - ・ 保健所の積極的疫学調査への協力の呼びかけ
- また、他県での感染状況等を踏まえ、変異株を想定した学校、大学、専門学校での感染対策が十分に行われているのかについて、改めて確認が必要である。
- 現在、行っているPCR検査については、この間の検査の実施状況や陽性者の状況、また、保健所の疫学調査の分析等を行い、よりターゲットを絞った検査の実施方法について、検討することが必要である。